

# おお大勝利

平成 21 年度山東サッカー部報第 4 号 (5 月 13 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 地区総体 決勝で日大に力負け

5 月 9 日 (土)、10 日 (日) の両日にわたり、山形市スポーツセンターにて地区総体が開催されました。今年度の地区総体は、昨年度の Y リーグ (山形県リーグ) の結果と今年度の M リーグ (村山地区リーグ) 結果により県総体に進むこととなったチームのトーナメントと、残念ながら M リーグ結果により地区敗退が決まったチームのトーナメントとの二つに別れ、実施されました。山東は Y リーグ 1 部に所属しているため、前者のトーナメントで出場。第一試合は M リーグを 3 位の成績で抜けた上山明新館との対戦。

上山明新館は、もともと FW だが能力を買われ DF で起用され続けている選手と、前線の大型選手がキープレーヤー。特に DF の選手は後ろでも前線でもがんばれる厄介な選手。しかし、敵はともかく前の週の城北戦を修正し、ボールを無駄に失わないことを意識して試合に臨みました。試合は開始直後に得点した山東が終始優勢。スコアは 6 - 0 で申し分なしでしたが、スコア以上に、得点できなかった時間を含め、ゲームをコントロールできたことが収穫。わずかな期間で自分たちの戦い方を修正できたことに成長を感じました。

次の試合は 10 日の第一試合、山商戦。山商は確かな技術、落ち着いた状況判断、切れ味あるスピードなどストロング・ポイントが多い。以前の練習試合で押され気味であったこともあり、警戒していたチーム。また前日の試合で城北を 6 - 0 で破り、波に乗っている。不安を抱えながら試合に臨みました。しかし、いざ試合が始まると顧問よりも選手が落ち着いており、山商の高い技術にしっかり対応する冷静な試合運び。そして敵を敵ゴール近くに押し込んでからの丁寧なパス回しで、徐々にペースを握り始める。特にボランチの 3 年 **惣太** と 1 年 **田嶋** が攻守にわたり好プレーを見せ、ゲームをコントロールする。「流れの良い時間帯にしっかり点数を取らないと、マズいな〜」などと思っていた前半終了間際、センターリングしても良い状況で前線の選手へのポストプレーを選択した 2 年 DF **孝祐** の好判断の後、細かいパス交換から絶妙な引き技 (ボールを自分のほうに引く) で前を向いた 2 年 FW **松永** がねじ込み、先制。そして直後に前半終了。最高の流れで後半を迎えた山東は、後半も山商の攻撃をいなしながら押し込む堅実な試合運びで、スコアを守り 1 - 0 で勝利。得点こそ 1 得点でしたが、誰もいないところに蹴って相手にボールをプレゼントしてばかりいた前週の城北戦からすると、信じられない素晴らしい試合内容。これは決勝も楽しみだ、と胸を躍らせました。

決勝の相手は、毎年怒涛のプレッシングとコンタクトスキルに秀でた村山地区の雄、日大山形。そのしぶといチーム作りに、地区ばかりか県内の多くのチームが痛い目を見てきた。そのプレッシング、素早い攻撃を受け止めつつ中盤の構成力を活かした今年度の山東の戦い方ができるかが試合のポイントでした。準決勝の内容が良かったため、「行ける」と

の期待をもって迎えた序盤、早々に押し込まれ、撥ね返すもクリアが短くまた拾われて押し込まれる、最悪の出だし。そして CK からのヘディングに付いていけずあっさり失点。その後も押し込まれるばかりで、前線で起点を作れなかったりハーフェイライン付近で奪われたりと散々な内容。GK を含めたディフェンスのミスも重なり、結局良いところなしの 3 失点。また失点しただけでなく、日大の激しいボディコンタクトを嫌がり避けようとするプレーが見受けられ、**ファイティング・スピリットに問題を感じる試合内容**。山東は技術的に大したことがないので、「気持ちで負けても勝負に勝てるチーム」ではないのですが、気持ちで負けてはジ・エンド。風上に立った後半は何とか、パス、ドリブルで日大ゴールに迫るも、結局は無得点。時折受ける日大の逆襲の方が鋭く思える、そんな後半でした。

準決勝までの最高の戦いと、決勝での最悪の戦い。どちらも本当の山東なのでしょう。もちろん相手が違うので試合内容が違うのは当然ですが、すべてを相手の違いにして良いとは思えません。結局は自分たちの闘いがコンスタントにできない弱さ、といえるでしょう。またトラップ、パス、ドリブルもハイ・プレッシャーの中でできてこそ本物でしょうが、まだまだ偽物のプレーが多すぎます。真摯に反省して、県総体に今回の経験が生きるようにしたいものです。

二日の間、多くの OB の方々、保護者の方々（卒業生の保護者の方々も含めて！）、そして山東応援団の皆さん、野球部の皆さんから大きな大きなご声援を頂戴しました。ありがとうございました。**県総体でもがんばります！！**

## 次節 Y リーグ 鶴岡ラウンド迫る

Y リーグ（旧県リーグ）第二節が早くも 5 月 16 日に行われます。場所は鶴岡、対戦相手は鶴東となります（13:00 キックオフ）。鶴東の校舎のある場所での試合ではないのでご注意ください。

於：**鶴岡東高等学校総合グラウンド（鶴岡市高坂字鉢ヶ森36-1）**

山東は 3 年生が引退する前に、何とか Y リーグの勝ち点を増やしていたいところ。実際、Y リーグ 1 部の結果により次年度の県総体のシードの枠の位置も決まるため、1 部に残留しシード権を取るだけでなく、順位も気にしたいところ。また**来年度から県総体の推薦枠 = シード枠が 8 つに固定**されるため、プリンスリーグ東北にいる高体連所属のチームが二つあることを考えると、**今年度、そもそも Y リーグ 1 部においても 6 位以内に入らなければ、次年度の県総体の推薦枠は確保されません**（4 月に M リーグを戦わなければならなくなる）<sup>1</sup>。たくさんの応援よろしく願います。

<sup>1</sup> 今年度は、「県リーグの 1 部以上にいれば県総体の推薦枠 = シード枠がもらえる」という昨年度までのルールを一部適用し、プリンス 2 チーム、Y リーグ 8 チームの計 10 チームに県総体の推薦枠が与えられましたが、シード枠は上位 8 チームにしか与えられません（山東は Y リーグ 1 部に昇格した 2 チームを除く 8 チームのうちぎりぎり最下位でシード確保）。昨年度までのルールは、県リーグ 1 部以上にいる高体連所属チーム数が 8 つであった年度では「県総体推薦枠 = シード枠」という原則が維持され有効に機能しましたが、今年のような状況では、その原則が維持できない不都合が生じました。来年度からはこの不都合を解消するため、プリンス・Y リーグ 1 部のうち上位 8 チームに入らなければ県総体推薦枠 = シード枠なしというルールへと変更されます。